

私費外国人留学生選抜

令和七年度 熊本県立大学文学部

日本語日本文学科 入学試験問題

日本語の読解能力及び日本文学（現代文学・古典文学）の理解度についての試験

― 注意事項 ―

- 1 問題・解答用紙はこの表紙を含めて九枚あります。
- 2 解答はすべて別紙解答用紙に記載すること。
- 3 解答用紙のすべてに受験番号を記載すること。
- 4 試験終了後は、この問題・解答用紙をすべて提出してください。

□ 次の文章を読んで後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(羽生善治『直感力』株式会社PHP研究所、二〇一二年)

問一 本文中の傍線部a～cについて、漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直して書け。

問二 波線部で用いられている表現について、「勝負を投げる」「完膚無きまで」「踏ん張る」とはそれぞれ
どういう意味か答えよ。

問三 本文中の□の語と同じ意味のものを次から一つ選び、符号で答えよ。

ア むしろ イ もっぱら ウ けっして エ おおよそ

問四 二重線部「その違いを理解し、見極めの精度を高めていく」とあるが、筆者は何と何との違いを理解し見極めると述べているか、本文の抜粋ではなく、自身の言葉で説明せよ。

問五 この文章の中で筆者は勝負と決断について書いている。本文の内容や過去の経験と関連付けて、自身の決断力について述べよ。

□ 次の文章は『土佐日記』の一節である。よく読んで後の問に答えよ。

* 作者は、土佐国から都へ戻る途中、室津むろつ（現在の高知県室戸市）という場所に滞在している。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

注

十八日〓承平五（九三四）年一月十八日。

同じところ〓土佐国室津の港。

泊〓船着き場。港。

男どち〓男性たち。

心やり〓気晴らし。

磯〓岩や石の多い海岸。

鶯〓鳥の名。

船の長〓船を漕ぐ人たちをまとめる人。

翁〓年を取った男性。

人の何かといふ〓人々が色々と評価をする。

歌主〓歌を作った人。

気色〓気分。機嫌。

まねべども〓真似まねをしようとしても。

読み据ゑ〓きちんと読むことができる。

問一 二重傍線部(a)～(d)の語の品詞は何か、それぞれについて適切なものを次から選び、符号で答えよ。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 助動詞 オ 助詞 カ 副詞
キ 接続詞 ク 名詞

問二 傍線部(1)～(6)のうち、助動詞「ず」の活用でないものを一つ選び、数字で答えよ。

問三 太傍線部①～④の助動詞の意味は何か、それぞれについて適切なものを選び、符号で答えよ。

ア 過去 イ 断定 ウ 自発 エ 受身 オ 推量 カ 完了 キ 希望

問四 傍線部X・Yを現代語訳せよ。

問五 波線部Aについて、次の例を参考にして、品詞・活用の種類・活用形を答えよ。

(例) 形容詞・ク活用・未然形

問六 傍線部Bの現代語訳として適切なものを次から選び、符号で答えよ。

ア この歌は、いつもは無口な人が詠んだものである。

イ この歌は、いつもは漢詩を作らない人が詠んだものである。

ウ この歌は、いつもは歌を作らない人が詠んだものである。

エ この歌は、いつもは船に乗らない人が詠んだものである。

オ この歌は、いつもは港に居ない人が詠んだものである。

問七 短歌形式の和歌は、五つの句で構成される。次の例を参考にして、傍線Cの和歌の、句の切れ目

に、斜線を入れて、五句に分割せよ。

(例) 春が来て／桜の花が咲いた

問八 波線部Dについて、皆は、何が理由で、そのような反応をしたのかを説明せよ。

問九 本文の出典である『土佐日記』の読みを平仮名で答えよ。

問十 『土佐日記』は、平安時代の作品である。次の中から、同じ時代の作品を二つ選び、符号で答えよ。

ア 雨月物語 イ 源氏物語 ウ 竹取物語 エ 仁勢物語 オ 平家物語

三 次の問題に答えよ。

問一 次の文学作品の作者名を答えよ。

- ①「人間失格」 ②「暗夜行路」 ③「破戒」 ④「地獄変」 ⑤「細雪」

問二 次の①～②に掲げるのは、いずれも日本で有名な小説の冒頭部である。その小説の作品名・作者名をそれぞれ答えよ。

- ① 著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。
②

問三 次の詩を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(室生犀星「小景異情 その二」)

①この詩と共通する詩情を詠んだ短歌を次から一つ選び符号で答えよ。

- ア 著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。
イ
ウ
エ

②この詩の作者である室生犀星と同時代に活躍した詩人を一人、次から選び符号で答えよ。

- ア 伊藤比呂美 イ 谷川俊太郎 ウ 萩原朔太郎 エ 樋口一葉

③この詩の背景を説明している次の文において、空欄二か所に共通して入る都市名を答えよ。

明治維新以降、新政府の方針もあつて、日本ではあらゆるものが中央Ⅱ
中心の制度設計に作り替えられた。文学も例外ではなく、この詩が作られた大正

時代にあっても、文学を志すものは必然に地方から に出て来ざるを得ない状況があつた。

問四 明治二十四（一八九二）年に第五高等学校（現・熊本大学）にやってきた英語教員で、作家として「怪談（KWAI DAN）」などの作品も残した人物の名を答えよ。

問五 明治く昭和時代に発表された日本の小説作品を一つ挙げて、その題名・作者・あらすじを記せ。

問六 日本の近代文学の特徴はどんな点にあるか。近代以前の時代の文学と比較しつつ自身の考えを述べよ。

以下余白